廢止シタモノト見做ス結果トナルモノテアル

法律ノ前後ハ裁可ノ前後ヲ以テ定メナケレハナラヌ如何トナレハ法律ハ裁可ヲ以テ完成スルカラテアル公布ヲ標準トシテ法律ノ前後ヲ定ムルハ誤リテアル併シナカラ實際ニ於テハ普通ニ裁可ト公布トハ同一日附ヲ以テ官報ニ顯ハレルカラ公布ノ前後ヲ以テ法律ノ前後ヲ定メテモ誤リハ少イモノヲアル

第二、緊急勅令ニ依ツテ法律ヲ廢止セラレシ場合

法律ハ法律ヲ以テ廢止スヘキコトヲ原則トスルケレトモ憲法第八條(天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス)ニ依ツテ法律ヲ以テ法律ヲ廢スル如ク此ノ勅令ヲ以テ法律ヲ廢スルコトヲ得ルモノテアル其廢止ハ法律ヲ以テ廢止シタト少シモ効力ニ變リハナイ緊急勅令カ後ニ効力ヲ失フトモ前ノ法律ハ復活シナイモノテアル前ノ法律ヲ廢止シタ後ノ法律カ廢止セラレテモ之レカ爲メニ前ノ法律カ再ヒ復活シナイノト其理窟ハ同シテアル即チ

議會ノ承諾ナキ爲メニ其緊急勅令ハ將來ニ向ツテ効力ヲ失フコトヲ公布シテモ之レカ爲メニ前ニ廢止シタ法律ハ復活スヘキモノテハナイノテアル

第三、法律カ自ラ其廢止ノ條件期日ヲ定メテ其條件期日發生到達シタル爲メニ廢止セラルヽ場合

此ノ場合ニハ其法律執行ノ結果トシテ其條件期日カ發生到達シタモノテアルカラ當然廢止セラルヽモノテアル例ヘハ傳染病カ撲滅セラレタナラハ廢止シ又ハ明治三十七年四月三十日迄執行スト云フ如キ法律ハ傳染病撲滅ト云フ條件カ發生スルカ又ハ明治三十七年四月三十日トナレハ其法律ハ當然廢止セラルヘキモノテアル

法律カ其廢止ノ條件期日ヲ命令ノ規定ニ委任シ命令ヲ以テ之レヲ定メテモ亦同一テアル此ノ場合ニ於テハ命令ヲ以テ法律ヲ廢止スルノテハナク命令ハ唯タ其條件期日ヲ定ムルニ止マリ其條件期日カ生シタナレハ其法律ハ廢止セラルヽト云フコトヲ法律自身カ規定シテ其爲メニ廢止セラルヽモノテアル

次ニ法律ヲ廢止スルノテハナイカ法律ノ効力ノ一部ヲ廢止スルモノカアル其一ハ格段ノ場合ニ特定ノ人ニ對シテ法律ヲ適用シナイコトテアッテ之レヲ免除ト云フ例ヘハ租税ヲ免除スルカ如キ又ハ兵役ヲ免スルカ如キ此レテアル其二ハ一定ノ時間ヲ限リ全國又ハ一定ノ區域ニ對シテ法律ノ適用ヲ停止スルコトテアッテ之レヲ停止ト云フ例ヘハ戒嚴ノ宣告ノ如キハ此レテアル免除及ヒ停止ハ共ニ法律ノ効力ノ一部ヲ廢止スルモノテアルカラ法律ニ特別ノ規定カナケレハ之レヲ行フコトヲ得ス併シナカラ停止ハ一定ノ期間法律ノ適用ヲ停止シテ居ルモノテアルカラシテ其期間ヲ經過シタ時ニハ最キニ停止セラレタ法律ハ再ヒ其効力ヲ快復スヘキハ勿論テアル

第三章　司法

司法トハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依ッテ裁判所カ行フ統治作用テアルコトハ既ニ述ヘタ如クテアル我カ國法上司法ト云ヘハ廣ク裁判ト同視スヘキモノテハナイ彼ノ行政裁判所ニ屬セシメタル行政裁判其他今日ニ於ケル樞密院ノ權限爭議裁定或ハ貴族院ノ議員資格及ヒ選擧ニ關スル爭訟ノ判決等ハ此

ノ内ニ含有シテ居ラヌ即チ普通ニハ民事刑事ノ裁判ノミヲ指スヘキモノテアル

裁判所ハ其司法作用ヲ行フニ當ッテ其自由判斷ニ從ッテ法律命令ノ解釋適用ヲ爲シ法律ニ關スルノ外ハ勅命ヲ以テシテモ其解釋適用ノ自由ヲ拘束スルコトハ出來ヌモノテアル偖裁判所ハ此ノ權利ヲ有シテ居ルカラ法律ヲ解釋適用スルニ當ッテハ其適用シヨウト思フモノカ果シテ法律テアルカ否カヲ審査スヘキテアル何トナレハ裁判所ハ法律テアルカ故ニ之レヲ適用スルノテアッテ法律以外ノモノテアッタナレハ之レヲ適用スヘキ職權ヲ持ッテ居ラヌカラテアル

只タ其審査ハ如何ナル程度迄立チ入ルヘキモノテアルカト云フコトニ就テ古來種々ノ議論カアル或ハ審査ノ程度ハ法律ノ形式ニ止マリ正當ノ形式ヲ以テ公布セラレタ法律ノミヲ裁判所カ法律ト見做スヘキモノト云ヒ或ハ法律ノ實質ニ立チ入ッテ憲法其他ノ國法ニ於テ法律ヲ成立セシムルニ必要テアルトシテ規定シタル總テノ條件ヲ具備シテ居ルカトウカト云フコトヲ審

査シ之レヲ具備シテ居ラヌトキハ法律トシテナイト云フ者モアル予輩ハ此ノ第二ノ說即チ裁判所ハ其實質迄立チ入ツテ審査スヘキモノデアルト信シ第一ノ說ノ如ク形式ノ法律ノミヲ審査スル權能カアルモノデナイト考ヘル如何トナレハ第一ノ說ヲ唱フル者ハ曰ク「法律案ヲ法律トスルハ天皇ノ裁可ニ依ツテ決セラル彼ノ議會ノ協贊ヲ得ルト云フカ如キハ天皇カ裁可スルト否トノ條件トナルニ止マツテ法律其モノヽ成立ニハ關係ナイ法律其モノヽ成立ハ裁可ニ依ツテ完成スルモノデアル從ツテ之レヲ公布スレハ遵由ノ効力ヲ生シ裁判所ハ此ノ正當ノ形式ヲ以テ公布シタル法律ヲ法律トシテ認メ裁可以前ノ實質ニ遡ツテ其効力ヲ爭フヘキモノデハナイ」ト併シナカラ此ノ說ハ國法ニ於テ正當ナル形式ヲ以テ公布シタル法律ハ遵由ノ効力ヲ有スヘキコトヲ特ニ規定シ之レヲ以テ法律ノ法律タルヘキ効力ヲ決スル唯一ノ標準トシテ居ル國ニノミ行ハルヘキモノデアツテ我カ國ノ如ク憲法ニ於テ斯クノ如キ明文ナキ國ニ於テハ行ハルヘキモノデハナイ若シ憲法ニ於テ斯クノ如キ明文カアレハ法律ノ法律タル効力ハ公布ノ形式ヲ以テ決スヘキコトヲ命シ

實質上憲法違反ノ點カアツテモ其効力ニ影響セヌコトヲ定ムルモノデアルカラ裁判所ハ憲法ノ命スル處ニ從ツテ其審査權ヲ此ノ形式上ノ點ニ定メナケレハナラヌ併シナカラ此ノ規定ナキ我國ノ如キ國ニ於テハ天皇ハ憲法ノ條規ニ依リ其統治權ヲ行フト云フ規定ニ基イテ裁判所ハ或ル作用カ統治權ノ作用デアルカ否カヲ定メルニハ一々憲法ノ條規ニ基イタモノデアルカ否カヲ標準トシテ決スヘキモノデアル即チ法律制定ノ場合ニ於テモ一々憲法ノ條規ニ依ツタカトウカト云フコトヲ審査シ之レニ依ラナカツタモノハ統治ノ作用ヲ蓋シタモノデハナイ從ツテ立法ノ作用デモナク其結果法律デナイコトヽナル既ニ憲法ノ條規ニ依ルヘシト云ヘハ必ヌシモ形式上ノ點許リヲ含ムモノデハナク實質上ニ於テモ亦之レニ依ラナケレハナラヌ例ヘハ議會ノ協贊カ濟マヌノニ法律案ヲ裁可シテモ之レヲ立法ト云フコトハ出來ヌ又一院ノ可決アル許リデハ議會ノ協贊ヲ以テ立法シタト云フコトハ出來ヌ必ス規定通リノ手續ヲ悉皆備ヘテ居ラナケレハ完全ナル法律トシテ取扱フコトハ出來ヌモノデアル統治權ハ憲法ノ條規ニ依リテ之レヲ行フト云フ根

本ノ規定カアツテ此ノ上ニ憲法ニ於テ統治作用ノ一テアル立法ハ或ル條件ヲ經タル後裁可シテ之レヲ行フヘキモノテアルトシテアレハ其條件ヲ經ナイテ裁可シタ時ニハ勿論憲法ノ條規ニ從ハヌモノテアルカヲ統治權ノ作用テナク從ツテ立法テハナイト斷定シナケレハナラヌト考ヘラレル

次ニ憲法ト普通法トカ抵觸シタ時ニハ裁判所ハ憲法及ヒ法律ニ服從スヘキ必要カアルケレトモ憲法ハ普通ノ法律ヨリハ其効力カ強イモノテアルカヲ法律ハ憲法ノ爲メニ倒サレタモノト解釋シテ其法律ノ適用ヲ拒ムヘキモノテアル

終リニ注意スヘキコトハ法ノ解釋適用ニ就テ獨立權ヲ有シテ居ル者ハ裁判所テアツテ裁判官テナイコトテアル普通ニハ裁判官カ此ノ獨立權ヲ持ツテ居ルヤウニ考ヘテ居ルケレトモ之レハ誤リテアル我憲法第五十七條ニ於テ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之レヲ行フト規定シ裁判官之レヲ行フトハ規定シナイ從ツテ憲法ニ於テハ此ノ獨立權ハ裁判所ニ對シテ擔保シ裁判官ニ對シテハ擔保シテ居ラヌ又裁判所構成法ニ就テ見テモ裁判官

ハ右ノ獨立權ヲ有シテ居ラヌ例ヘハ合議制裁判所ノ判官ハ其多數決ヲ以テ判決ヲ言渡スモノテアルカヲ少數ニ屬スル意見ヲ有スル者ハ其意思ヲ曲ケテ多數ノ意見ニ從ツテ解釋適用シナケレハナラヌ又此等ノ判官ハ反對ノ意見ヲ有スルコトヲ理由トシテ宣告書ニ署名ヲ拒ムコトヲ許サレナイ必ス署名スヘキ義務ヲ持ツテ居ル即チ法ノ解釋適用ニ關シテ獨立ノ地位ヲ有シテ居ルモノハ裁判所テアツテ裁判官テハナイ

第四章 行政

行政ハ既ニ述ヘタ通リ以上ノ立法司法ニ屬セヌ統治ノ作用ヲ總稱スルモノテアルカヲ其範圍ハ頗ル廣ク種々ノ統治作用ヲ含ムモノテアル今次ニハ其中テ憲法ト重大ナル關係アルモノニ就テノミ述ヘルコトヽシヨウ

第一節 命令

法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ天皇カ裁可公布シタモノテアルコトハ既ニ述ヘタ如クテアル命令ハ此ノ法律ニ對シテ議會ノ協贊ヲ經ルコトナシニ天皇カ親ラ之レヲ發シ又ハ發セシムルモノハ指ス命令ヲ發スルニハ通常議會ノ

同意ヲ求メタモノデアツテ之レヲ求ムヘカラスト云フノデハナイ只タ法律又ハ豫算ノ如ク之レヲ發スルニ先ツテ必ス議會ノ同意ヲ求ムヘシト云フ必要カナイト云フニ過キナイ從テ命令ハ常ニ議院若クハ議會ノ同意ヲ求ムルコトカナイト考ヘテハナラヌ例ヘハ貴族院令ノ改正增補ニ關シテ貴族院ノ同意ヲ求ムルカ如キ緊急勅令ニ對シテ議會ノ承諾ヲ求ムルカ如キハ皆命令デアツテ議院又ハ議會ノ同意ヲ求ムル實例デアル

天皇カ親ヲ發スル命令ヲ勅令ト云ヒ天皇カ他ノ機關ニ命シテ發セシムル命令ヲ閣令省令府縣令等ト稱スル此ノ閣令省令以下ノ命令ニ就テハ行政法ノ範圍ニ屬スルコトデアルカラ茲ニハ只タ勅令ノミニ就テ說明シナケレハナラヌ勅令ニ就テハ既ニ第一編第二章第二節天皇ノ大權ト云フ題下ニ於テ略解シテ居ルカラ茲ニハ之レヲ省略スル

第一、緊急命令（憲法第八條）

緊急命令ハ左ノ如キ條件カ發生シタ時ニ發スヘキモノデアル

一、公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メナルコト　緊急命令ハ單

ニ危險又ハ災厄ヲ除クヘキ消極ノ目的ヲ以テノミ之レヲ發シテ公共ノ利益ヲ保護シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ增進スルカ如キ積極ノ趣旨ニ依ツテ之ヲ發スルコトヲ許サナイ又公共トアルカラシテ一人又ハ特定ノ私人ノ爲メニヌルノデハナクテ直接ニ國家又ハ公共ノ安全及ヒ災厄ニ關スル場合デナクテハナラヌ

二、緊急ノ必要ニ由ルコト　緊急ノ必要ト云フハ次ノ議會ノ開會ヲ待ツテ立法手續ニ依ルコトヲ待ツ隙ノナイコトヲ云フ又緊急勅令ヲ發スルハ法律ヲ以テ既ニ規定シタ事項ヲ變更廢止スルカ又ハ憲法上法律ヲ要スル事項ヲ命令ヲ以テ規定スル場合デナケレハナラヌ何トナレハ法律ノ區域ニ關シナイ以上ハ何時ニテモ勅令ヲ以テ定ムル事ヲ得殊更ラニ緊急勅令ニ依ル必要カナイカラデアル

三、帝國議會閉會中ナルコト　緊急勅令ヲ發スルニハ必ス帝國議會ノ閉會中デアルコトヲ必要トスル閉會中トハ前會期ノ閉會カラ次ノ會期ノ開會迄ノ間ヲ云フソレ故ニ召集カラ開會迄ノ間モ亦天皇カ此ノ命令ヲ發スルコトヲ妨

ケナイ停會ハ開會中ノ出來事デアツテ單ニ議事ヲ中止スルニ止マリ解散ハ一院ノミニ行フヘキモノデアツテ帝國議會全體ノ閉會トナルモノデハナイカラ此ノ二ツノ場合ニ於テハ其ニ此ノ命令ヲ發スルコトヲ得ヌモノト考ヘナケレハナラヌ

法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルト云フコトハ形式上及ヒ實質上ノ點ニ於テ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルト云フ意味デアル即チ憲法上法律ヲ以テ規定スヘキモノヲ緊急命令ヲ以テ規定スルコトヲ得ルモノデアル又憲法上ノ法律ハ法律ヲ以テ之レヲ廢止變更スヘキコトヲ原則トスルニモ拘ラス緊急命令ハ法律ニ代ツテ之レヲ廢止變更スルコトヲ得ルモノデアルソレ故ニ此ノ命令ハ形式上實質上共ニ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルモノデアツテ論者ノ云フ如ク形式上ノ點ニ於テノミ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルモノデアツテ實質上ノ點ニ於テハ之レヲ認メス緊急勅令ハ一般ニ法律ノ廢止變更ヲ爲スコトヲ得ルモノデナク唯憲法上法律ヲ以テ規定スヘシト命シタルモノヲ此ノ命令ヲ以テ規定スルコトカ出來ルト云フニ止マル」ト說明スルハ誤リデアル

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ若シ議會ニ於テ承諾シナカツタナレハ政府ハ將來ニ向ツテ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘキコトハ前ニ說明シタ通リデアル

第二、執行命令（憲法第九條前文）

執行命令ハ既ニ述ヘタ通リニ既ニ制定セラレタ法律ヲ執行スル爲メニ發スル命令デアル此ノ命令ハ法律カ既ニ規定シテ居ル範圍內ニ於テ其細目ヲ設クルニ止マリ其法律以外ニ互ツテ範圍外ノコトヲ規定スルコトヲ許サレナイ又一般ノ法律ニ抵觸スル規定ヲ設ケ又ハ憲法上法律ヲ要スル事項ヲ規定スルコトヲ得スモノデアル執行命令ノ目的ハ特定ノ法律ヲ執行スル爲メニ發スルモノデアルカラ其特定ノ法律カ廢止セラレタ時ニハ執行命令モ亦共ニ消滅スヘキモノデアル

執行命令ハ天皇親ラ之レヲ發シ若クハ特別ノ機關ニ委任スルコトヲ得ヘキモノデアル公文式第四條ニハ「內閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍內ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保

持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得」トアリ又各省官制通則第四條ニハ「各省大臣ハ主任ノ事務ニ就キ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得」ト規定シテアル前ノ緊急勅令ハ必ス天皇直接ニ之レヲ發シ豫メ之レヲ行政機關ニ委任スルコトヲ許サナイ此レ兩者間ノ著シキ相違ノ點テアル

第三、獨立命令（憲法第九條末文）

獨立命令トハ法律カマタ規定シテ居ラヌ範圍ニ於テ自由ノ規定ヲスルコトヲ得ル命令テアツテソレ自身獨立ノ地位ニアルカラシテ之レヲ獨立命令ト云フ獨立命令ハ消極的ニ法律ニ依ツテ制限セラレ又ハ法律カ既ニ先占シテ居ル事項ニ抵觸シ若クハ憲法上法律ヲ要スル事項ヲ規定スルコトヲ得ナイノハ勿論又公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ增進スヘキ目的ニ協ハナケレハナラヌ茲ニ云フ「公共ノ安寧秩序ヲ保持シ」トハ警察ノ消極手段ヲ指シ「臣民ノ幸福ヲ增進スル爲メ」トハ經濟上國民ノ生活ヲ富殖シ教育上其智識ヲ開發スル積極ノ手段ヲ指スモノト解スヘキモノテアル

明文ニハ「發シ又ハ發セシメ」トアルカラ獨立命令モ亦執行命令ト同シク天皇親ラ之レヲ發シ又ハ一定ノ範圍ヲ定メ若クハ特別ノ一事項ニ關シテ之レヲ行政機關ニ委任シテ發セシムルコトヲ得ヘキモノテアル

獨立命令ハ又之レヲ補充命令ト云フ者カアル其意ハ法律カ未タ規定シテ居ラヌモノヲ規定シテ之レヲ補フト云フニアルテアラウケレトモ命令ヲ以テ法律ヲ補充スルコトハ國法上許シ難イ處テアル法律ヲ補フニハ必ス法律ヲ以テシナケレハナラヌソレ故ニ理窟カラ云ヘハ補充命令ト云フ語ハ當ラヌヤウニ思ハレル又獨立命令ハ行政命令トモ云フ人カアル其意ハ行政ノ目的ヲ達スル爲メニ發スル命令ト云フニアルノテアラウ併シナカラ此ノ點カラ云ヘハ執行命令ノ如キモ亦行政ノ目的ヲ達スル爲メニ發スルモノト云フコトカ出來ルカラ此ノ名稱モ亦穩當ヲ欠テハ居ルマイカ

第二節　豫算

第一項　豫算ノ性質

豫算ノ性質ヲ論スルニ當ツテ先ツ問題トナルヘキハ「豫算ハ法律ナリヤ否ヤ」

ト云フコトテアル抑モ法律ハ我國法上帝國議會ノ協贊ヲ經テ天皇カ之レヲ裁可公布シタモノテアルコトハ既ニ述ヘタ如クテアル是故ニ我カ國法上豫算ヲ法律テアルトスレハ帝國議會ノ協贊ト天皇ノ裁可及ヒ公布トヲ要スルコトヲ證明シナケレハナラヌ豫算ハ果シテ帝國議會ノ協贊ト天皇ノ裁可及ヒ公布トヲ要スルカ即チ帝國議會ノ協贊ト天皇ノ裁可及ヒ公布カナカツタナレハ之レヲ豫算ト云フコトカ出來ヌカ

或學者ハ憲法第三十四條ニ「國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」トアツテ法律ヲ以テ之レヲ公布スヘシト云フ規定ハ何處ニモナク又第六十七條ニ「政府ノ同意云々」トアルハ(某々ノ歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之レヲ廢除削減スルコトヲ得ス)豫算ノ成立ニ對シテ天皇ノ裁可ヲ要スルモノテナイコトヲ示シテ居ルト説明スルケレトモ我國法上天皇ト政府ト同一視スルコトハ出來ナイカラ第六十七條ニ所謂政府ノ同意モ天皇ノ裁可トハ差異カアツテ單ニ政府一箇ノ意見カラ出タ同意ト解シナケレハナラヌ併シナカラ其豫算全體ニ向ツテ天皇カ裁可權ヲ持ツテ居ラルヽハ勿

論テアルカラ豫算ニハ天皇ノ裁可ヲ要シナイト云フコトハ出來ナイ

以上述ヘタ如ク豫算ニハ天皇ノ裁可ヲ要シ又第六十四條ニハ「帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」トアルカラ或學者ハ之レヲ理由トシテ豫算ハ帝國議會ノ協贊ヲ要シ天皇ノ裁可ヲ經タモノテアルカラ之レヲ法律ト云フコトカ出來ルト論スル者カアル併シナカラ法律ノ成立ニ帝國議會ノ協贊及ヒ天皇ノ裁可ヲ要スト云フノハ帝國議會ノ協贊ト天皇ノ裁可トヲ法律ノ要素トスルニアツテ天皇ノ裁可ト帝國議會ノ協贊トカアレハ總テ法律テアルト云フコトハ出來ナイ豫算ハ天皇ノ裁可ヲ要素トスルコトハ前ニ述ヘタ如クテアルカ然ラハ帝國議會ノ協贊モ又豫算ノ要素テアルカ換言スレハ議會ノ協贊カナケレハ豫算ハ成立セヌモノテアルカ第六十四條ニハ「國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」トアルカラ必ス議會ノ協贊ヲ必要トスルト云フ樣ニ聞ヘルケレトモ此ノ條文ニヨレハ「協贊ヲ經ヘシ」ト云フテ第三十七條ノ樣ニ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」ト明カニ規定シテ居ラヌ又第七十一條ノ如キ豫算不成立ノ場合ニハ前年度ノ豫算ヲ施行シナケレハナ

ラヌカ此際ニハ前年度ノ豫算ヲ本年度ノ豫算トシテ施行スヘキモノナルカヲ必スシモ議會ノ協贊ヲ經ルコトヲ要シナイ又(第六十五條)ニ於テ皇室費ハ議會ノ協贊ヲ要シナイコトヲ明定シテ居ルノヲ見レハ豫算ニハ議會ノ協贊ノナイ豫算カアルカラ從テ帝國議會ノ協贊ハ豫算ノ要素ト云フコトハ出來ナイモノデアル

以上述フル所ニ依ツテ豫算ハ法律デナイコトハ明トナツタ然ラハ豫算ハ如何ナルモノデアルカ此點ニ關シテハ諸學者カ種々ノ定義ヲ附シテ居ルケレトモ要スルニ豫算ハ普通帝國議會ノ協贊ヲ以テ定メタ(協贊ヲ要セヌ場合モアレト)金錢出納ノ見積書デアル豫算ハ法律デハナク行政機關ニ對シテ効力アル命令デアツテ政府カ任意ニ使用スルコトヲ得ル歳出歳入ヲ定メタモノデアル之レヲ定ムルニハ通常帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキコトヲ原則トシテ居ル議會カ豫算ヲ協贊スルノハツマリ財政監督ノ一方法デアツテ政府ノ濫費ヲ防止スル爲メニ外ナラカノ立法行爲ノ樣ニ帝國議會ノ協贊カナケレハ法律カ成立シナイト同樣ニ協贊カナケレハ豫算ヲ成立サセルコトカ出來ナイト云フノデハナイ

第二項　豫算ノ成立

第一、豫算ノ調製

豫算ヲ調製スル權利ヲ有シテ居ルモノハ我カ國法上獨リ政府ノミデアル(憲法第六十五條會計規則第四條)貴衆兩議院ニハ其權利ヲ與ヘラレテ居ラヌ之レハ畢竟豫算ハ國家ノ歳出歳入ノ整理方法デアルカラ財政ノ任ニ當ルヘキ政府ニ調製セシムル必要カアルカラデアル

豫算ハ收入支出ニ分チ收入支出ハ經常臨時ノ二部ニ又各部ハ更ラニ之レヲ款項ニ區分スル款項ニ區分スルハ歳入ニ於テハ其性質ヲ示シ歳出ニ於テハ其目的ヲ明カニスル爲メデアツテ其區分ハ豫算調製ノ權ヲ持ツテ居ル大藏大臣カ定ムヘキモノデアル此ノ中ニハ必ス第六十六條ノ皇室費ト第六十九條ノ豫備費トヲ設ケナケレハナラヌ此ノ二ツノ款項カナカツタナレハ其豫算ハ憲法上豫算タルヘキ効力ハナイト云ハナケレハナラヌ(第六十九條)

第二、豫算ノ提出

豫算ヲ調製スルモノハ政府ヲ措イテ他ニ無イ故之レヲ提出スルモノモ又政府テアル政府カ之レヲ議會ニ提出スルニハ必ス衆議院ヲ先ニシ(第六十五條)法律ト同シク政府カ任意ニ定ムルコトヲ得ナイモノテアル豫算ヲ提出スル時ニハ其參考トシテ各省ノ豫定經費要求書及ヒ其年ノ三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳出歳入現計書ヲ添附シナケレハナラヌ歳入歳出現計書ハ最近年度ノ現計ヲ示スコトヲ目的トシ又豫定經費要求書ハ豫算調製ノ基礎ヲアツテ之レニ依ツテ各項ノ内譯ヲ明細ニ示スコトヲ目的トスルモノテアル(會計法第六條會計規則第四條第八條第十條第十四條第十五條)

憲法第六十四條ニハ「國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」トアル故ニ豫算ハ少クトモ毎年一回ハ之レヲ帝國議會ニ提出シナケレハナラヌ或學者ハ此ノ毎年ト云フ意味ヲ會計年度トシテ居ル者モアルケレトモソレハ誤リテアル然ラハ豫算提出ノ時期ハ如何ト云フニ會計法ノ第五條ニハ「歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之レヲ提出スヘシ」トアルカラ豫算ハ會計年度ノ開始前ニ議會ニ提出シテ其協贊ヲ經ナケレ(

ハナラヌ只タ追加豫算ハ其調製ヲ豫定スルコトカ出來ナイカラ之レヲ議會集會ノ始ニ提出スルヲ必要トシナイ事ハ勿論テアル

第三、豫算ノ議定

政府カ豫算ヲ衆議院ニ提出シタ時ニハ衆議院ハ豫算委員(六十三人ノ常任委員)ニ附托シテ之レヲ審査セシメ豫算委員ハ豫算ノ審査ヲ終ツテ確定ノ議決ヲ爲シ豫算ヲ受取ツタ日カラ十五日以内ニ其經過及ヒ結果ヲ議院ニ報告スル議院ニ於テハ法律案其他ノ議案ト同樣ニ議決シテ之レヲ貴族院ニ廻附スル只タ豫算ハ法律案ト異ツテ三讀會ヲ要シナイ又修正ノ動議ヲスルニハ三十人以上ノ贊成カナケレハナラヌ(議院法第二十條第四十條第四十一條衆議院規則第四十二條第六十二條第六節)次ニ貴族院ニ於テハ四十五人ノ豫算委員之レヲ審査シテ衆議院ノ議決ニ同意シタ時ニハ貴族院議長カヲ國務大臣ヲ經テ上奏シ衆議院ノ議決ニ同意シナカツタ時ニハ兩院ノ協議會ヲ開イテ之レヲ決スヘキモノテアル(貴族院規則第百三條第十七條第百十四條)

豫算ニ對スル貴衆兩議院ノ權限ハ只タ衆議院カ先キニ之レヲ受取ルト云フコトヲ外ニハ少シモ相違ハナイモノテアル

以上述ヘタ如ク帝國議會ハ豫算ヲ議決スル權限ヲ持ツテ居ルカラ從ツテ之レヲ廃除削減スルコトヲ得ルモノデアルケレトモ只タ次ノ如キ例外ノ場合カアル

一、皇室經費(第六十六條)

皇室經費ハ憲法制定ノ當時ニ於テ其額ヲ定メ將來增額ヲ要スル場合ノ外ハ議會ノ協賛ヲ要シナイトシテ居ルカラ毎年之レヲ豫算ノ中ニ掲ケテモ議會ハ之レヲ削除スルコトハ出來ナイ其理由ハ皇室經費ノ使用ハ宮廷ノ事ニ關シテ議會ノ問フヘキ限リテハナク議會ノ承諾及ヒ檢査ヲ受ケル必要カナイカラデアル憲法當時ニ定メラレタ額ト云フノハ三百萬圓デアル

二、繼續費(第六十八條)

特別ノ須要ニ因リ政府カ豫メ年限ヲ定メテ繼續費ノ支出ヲ求メテ議會ノ協賛ニ依ツテ定マツタ金額ハ其繼續年限ノ間ハ毎年之レヲ豫算ニ掲ケテモ議會ハ之ヲ否決スルコトハ出來ナイ繼續費ニハ必ス年限ヲ立テルコトヲ必要トシ決シテ無制限ノ繼續費ヲ設ケルコトヲ許サナイ又繼續費ハ特別ノ須要

ニ因ツテ之レヲ設ケルモノデアルカラ經常費ノ如キハ之レヲ繼續費トスルコトヲ得ヌモノデアル

三、第六十七條ノ歳出

左ニ擧ケル歳出ハ政府ノ同意カナケレハ帝國議會ハ之レヲ廃除シ又ハ削減スルコト得ナイ

イ、憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出　憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出ト云フハ天皇カ憲法上ノ大權ニ基イテ支出スヘキヲ定メ及ヒ其金額ヲ豫算制定以前ニ於テ既ニ定メタ場合ノ歳出ヲ指スモノデアル例ヘハ天皇カ官制制定ノ憲法上ノ大權ニ基イテ文部大臣ノ制度ヲ設ケ文武官任免ノ大權ニ基イテ文部大臣ヲ任免シ文武官俸給制定ノ大權ニ基イテ其俸給額ヲ定メ然ル後一定ノ俸給額ヲ賜給スヘキコトヲ命シタルカ如キ場合デアル此ノ場合ニハ金錢ヲ支出スヘキコト及ヒ其金額ハ既ニ憲法上ノ大權ニ依ツテ定マツテ居ルカラ議會ハ政府ノ同意ヲ得ズニ之レヲ廃除削減スルコトヲ許サレナイ既定ノ歳出ト云フコトヲ前年度ノ豫算ニ於テ定マツテ居ルモノト解釋ス

ルハ誤リテアル憲法ノ明文ニ於テ既ニ大權ニ基キタル歳出ト規定シテ居ルカラ其規定ハ議會ノ協贊ヲ以テ既定トナルト云フコトヲ示シテ居ラナイ又豫算ノ効力ハ一年限リノモノデアッテ前年度ノ豫算ハ本年度ニ對シテ効力ハナイ只タ豫算不成立ノ場合ニハ此ノ限リテハナイケレドモ之レトテモ本年度ノ豫算トスルカラ本年度ニ於テ効力ヲ有スルモノデ前年度ノ豫算トシテ効力カアルノデハナイソレ故ニ前年度ノ豫算ニ於テ確定シタ歳出モ現ニ効力ヲ失フテ居ルカラ之レヲ本年度ノ豫算カラ見ル時ニハ既定ト云フコトハ出來ナイモノデアル

此ノ種類ニ屬スル歳出ハ文武官ノ俸給、陸海軍軍事費、憲兵費、屯田兵費賞勳年金及ヒ褒賞費等ヲ指スモノデアル

ロ、法律ノ結果ニ由ル歳出　法律ノ結果ニ由ル歳出ト云フハ法律カ一定ノ歳出ヲ要スヘキ事實ヲ規定シ其規定ノ結果トシテ生スル歳出デアル例ヘハ法律カ會計檢査院ヲ設ケテ其檢査員ノ人員及ヒ俸給等ヲ定メタ時ニハ其法律ヲ執行スル結果トシテ當然要スヘキ歳出ノ如キ此レデアル此等ノモノハ

ハ政府ノ同意ヲ得ナケレハ帝國議會カ任意ニ之レヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ナイモノデアル此種ニ屬スヘキ歳出ハ會計檢査院經費、帝國議會經費、裁判所經費、恩給、扶助料等此レデアル

ハ、法律上政府ハ義務ニ屬スル歳出　法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ法律ノ規定ニ依ッテ政府カ義務トシテ當然支出スヘキ歳出デアル例ヘハ政府カ他人ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於テ民法ノ損害賠償ニ關スル規定ニ從ヒ當然支拂フヘキ賠償ノ如キハ此レデアル此ノ外償還利子及ヒ支拂手數料雇外國人ノ俸給、利子保證、預金利子等ハ皆此ノ種ニ屬スヘキモノデアル

此ノ外第六十九條ノ豫備費ノ如キハ議會ハ其金額ヲ增減スル議決ヲ爲スコトヲ得ルノミデアッテ全ク之レヲ廢除スルコトヲ得ヌモノデアルカラ又此ノ例外ノ一種デアル

以上述ヘタ所ノ一、二及ヒ三ノ場合ニ於ケル歳出ハ政府ノ同意カナケレハ議會カ之レヲ廢除又ハ削減スルコトヲ許サレナイ其同意ヲ求ムルニ當ッテハ議會カ先ッ意見ヲ定メテ之レニ同意スルカ否カヲ政府ニ向ヒ其同意カアッ

タ後ニ於テ議決確定スヘキモノ**テアル**

第四、豫算ノ裁可及ヒ公布

豫算制定ノ手續トシテハ豫算ノ議決ノ次ニ裁可公布カナケレハナラヌ即チ豫算カ帝國議會ノ協贊ヲ經タ時ニハ之ヲ天皇ニ奏上シテ其裁可ヲ得テ之レヲ公布シナケレハナラヌ豫算ノ裁可ハ必ス次ノ會計年度ノ以前ニシナケレハナラヌ如何トナレハ豫算ハ將來ノ歳入歳出ヲ計算スルモノテアルカラテアル

第三項　豫算ノ効力

豫算ノ効力ハ憲法第六十八條ノ繼續費ノ場合ヲ除ク外ハ一年限リノモノ分アル豫算ノ歳入ト歳出トニ關シテハ其効力ヲ異ニシテ居ル歳出ニ關シテハ行政官ヲ拘束スル力カアルケレトモ歳入ハ唯タ出納ノ平均ヲ見ル爲メニ之レヲ掲クルニ過キナイカラ之レヲ以テ行政官ヲ拘束スル力含マシムルモノテハナイツレ故ニ豫算カナケレハ行政官ハ金錢ノ支拂ヲスルコトカ出來ス歳入ハ豫算ニ依ツテ行フモノテハナク法律又ハ勅令ニ依ツテ之レヲ行フコ

ト會計法第十條ニ規定スルモノアル故ニ豫算ノ有無ハ歳入ニ關シテハ何等ノ影響モナイケレトモ歳出ニ關シテハ之レニ反スルモノテアル

豫算ノ款項ニ超加シ又ハ豫算外ニ生シタ支出カアツタ時ニハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求メナケレハナラヌ第六十四條第二項帝國議會カ之レニ承諾ヲ與ヘタ時ニハ此等ノ支出ハ將來ニ其効力ヲ繼續シ得ヘキハ勿論假令其支出カ既ニ終了シテ居ツテモ豫算不成立ノ場合ニハ前年度ノ豫算トシテ之レヲ施行スルコトカ出來ル之レニ反シテ議會ノ承諾カナケレハ其支出ハ將來ニ繼續スル効力モナク又豫算不成立ノ場合ニハ前年度ノ豫算トシテ之レヲ施スルコトヲ得ナイモノテアル

豫算款項ノ超過又ハ豫算外ノ支出ハ何處ノ財源カラ供給スルカト云フニ第六十九條ノ豫備費カラ支出シナケレハナラヌ豫備費ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フト豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルトニ依ツテ第一豫備金第二豫備金トニ分ツ（會計法第七條第八條會計規則第二章第五款）若シ豫備金カ盡キタ時ニハ帝國議會ヲ召集シテ臨時ノ必要ニ應スヘキ追加豫算ヲ定ムヘク若シ又帝國議會ヲ召

集スルコトカ出來ナカツタ時ニハ第七十條ニ依ツテ必要ノ處分ヲ爲スコトカ出來ル(第七十條)此ノ場合ハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル時ニ限リ內外ノ情形ニ因ツテ帝國議會ヲ召集スルコトノ出來ヌ際ニ政府ノ採ル臨時手段テアル次年度ノ豫算ヲ待ツコトノ出來ル場合又ハ帝國議會ヲ召集スルコトノ出來ル場合ニハ假令公共ノ安全ヲ保持スル必要カアツテモ此等ノ處分ヲ許サヌモノテアル政府カ此ノ處分ヲシタ時ニハ次ノ會期即チ處分以後初メテ開會シタ議會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求メナケレハナラヌ

第四項　豫算ノ不成立

帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ天皇カ豫算ヲ裁可シナイ等豫算成立ノ手續ヲ缺イタ時ニハソレヲ豫算ノ不成立ト云フ此ノ場合ニハ我國法上政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘキモノテアル(第七十一條)此ノ前年度ノ豫算ハ前年度ノ豫算ノ全部ヲ指シ單ニ其一部ノミヲ施行スルコトハ許サレナイ何トナレハ豫算ハ其全部ヲ通シテ一體トナスモノテアツテ各部獨立シテ各別ノ

豫算ヲ爲スモノテナイカラテアル從テ追加豫算ノ如キモ又本豫算ニ追加シテ其一部ヲ爲スモノテアルカラ追加豫算モ亦前年度ノ本豫算ト共ニ之レヲ施行シナケレハナラヌ

或ル論者ハ此ノ條文ニ於テ次ノ議會ニ於テ豫算ヲ議定スルニ至ル迄ハ假リニ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシト云フ意味ヲ附ケ加ヘ從ツテ衆議院ノ解散ニ依ツテ豫算カ成立ニ至ラナカツタ時ハ政府ハ次ノ議會ニ豫算案ヲ提出スル義務カアルト云フテ居ル併シナカラ明文ニ於テハ豫算不成立ノ原因ニ付イテ毫モ制限ヲ加ヘナイカラ其ノ場合ハ種々アルケレトモ畢竟豫算カ成立ニ至ラナカツタナレハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行シナケレハナラヌ

次ニ豫算カ引キ續イテ二年以上不成立テアツタ時ニハ如何ニシタラヨイテアラウカ元來前年度ノ豫算ヲ施行スヘシトハ前ニモ云フタ如ク前年度ノ豫算ヲ今年度ノ豫算トシテ施行スルコトテアルソレ故ニ明年度ニ於テ豫算カ成立シナカツタナレハ政府ハ昨年度ノ豫算即チ前々年度ノ豫算ヲ施行スヘキモノテアル何トナレハ前々年度ノ豫算ハ本年度即チ前年度ノ豫算テアル

カヲ前々年度ノ豫算ヲ施行スルノハ即チ前年度ノ豫算ヲ施行スル所以テアルカヲテアル

第三節　條約

條約ハ憲法第十三條ノ明文ニ基イテ天皇カ之レヲ締結スヘキモノテアル又條約ハ一種ノ約束テアルカヲシテ其効力ハ當事者ヲ拘束スルニ止マル即チ條約ヲ締結シタ處ノ我カ天皇及ヒ外國ノ國王若クハ大統領ヲ拘束シテ當事者以外ノ統治機關及ヒ國民ニ對シテハ効力ヲ及ホスモノテハナイ之レニ對シテ其効力ヲ及ホスコトカアレハ條約カ國法ニ變シタ時ノミテアル我國ニ於テハ條約ハ條約ト云フ名稱ヲ以テ之レヲ公布シ法律若クハ勅令ヲ以テシナイケレトモ條約ト云フ名テ公布セラレタ勅令ト解釋スヘキモノテアルソレテナケレハ其當事者タル天皇ノ外ニ統治ノ機關及ヒ國民ヲ拘束スルト云フ論結ヲスルコトカ出來ヌカラテアル

或學者ハ條約ハ當事者タル國家ヲ拘束シ從ツテ國家ノ一部テアル統治ノ機關及ヒ國民ヲモ拘束スルト論シテ居ル併シナカラ此レハ誤テアル何トナレ

ハ先ツ條約ノ當事者ハ國家ヲハナクテ天皇テアル憲法第十三條ニ天皇ハ條約ヲ締結ストアツテ國家ヲ條約ノ當事者トハシテ居ラナイ國家ハ法理上財產權ノ主體タル人格ヲ有スル外ニハ其他ノ關係ニ於テ人格ヲ持ツテ居ラヌカラ決シテ條約ノ當事者トナリ得ヘキモノテハナイ今假リニ一歩ヲ讓ツテ國家ニ人格ヲ認メテ條約ノ當事者テアルトシ之レニ拘束セラルヘキモノテアルトシテモ其統治機關及ヒ國民迄カ當然之レニ拘束セラルヽト云フハ理由ノナイコトテアル何トナレハ論者ノ說ニ從ツテ國家ニ人格ヲ認メテ條約ノ當事者トシタ時ニハ其人格許リカ拘束セラルヘキモノテアツテ國家ノ人格ト離レテ獨立シテ居ル統治機關及ヒ國民ノ人格カ拘束セラルヘキモノテハナイカラテアル之レヲ拘束スルニハ之レヲ拘束スル丈ケノ國法上ノ作用ヲシナケレハナラヌ即チ條約ノ事件カ憲法上法律ヲ以テ規定スヘキモノテナレハ法律ヲ以テ規定シ又命令ヲ以テスヘキモノハ命令ヲ以テ規定スルト云フヤウニ國法トシテ命スルニ於テ初メテ條約ハ當事者以外ノ人格ニ對シテ其効力ヲ及ホスモノテアル

憲法上法律ヲ以テ規定スルコトヲ必要トスル事件ニ就イテ天皇カ條約ヲ締結シタ時ニハ之レヲ國内ニ施行セントスルニ當ツテ議會ノ協贊ヲ經タル立法ノ手續ヲ履ヤナケレハナラヌ從來往々稅率ニ關スル條約ノ如ク立法ノ手續ニ依ツテ統治スヘキモノヲ單ニ條約トシテ公布シタノハ憲法違反ノ行動テアル天皇カ斯ノ如キ立法手續ヲ以テ施行スヘキ條約ヲ締結シタ場合ニ當ツテ若シ議會カ之レニ協贊ヲ與ヘナカツタ時ニハ天皇ハ外國ノ君主若クハ大統領ニ對シテ其條約施行ノ責ヲ負ヒ内國民ニ對シテハ之レヲ行フコトヲ得ナイト云フ地位ニ立ツモノテアルソレ故ニ外國ニ於テハ斯クノ如キ條約ハ豫メ議會ノ協贊ヲ以テ締結スルカ又ハ其條約ノ施行力ヲ議會ノ協贊ヲ得ルト云フ條件ニ懸ラシメテ居ルヲ通常トシテ居ル北米合衆國ニ於テハ更ヲニ一歩ヲ進メテ其憲法ノ明文ヲ以テ條約ソノモノニ各國ノ憲法及ヒ法律ニ優ル國法上ノ効力ヲ認メテ居ル只タ其締結ハ勿論議會ノ協贊ヲ經タル後ニ於テ之レヲ行フヘキモノテアル

以上ヲ以テ不完全ナル本講義ヲ結了ス

通俗帝國憲法講義 畢

明治四十年二月一日印刷
明治四十年二月六日發行

定價金七拾錢

不許複製

神戸市奥平野村番外五百四十六番屋敷
著作者　三卷俊夫

京都市上京區二條通富小路東入晴明町第六百七十番地
發行者　福富薫三

京都市上京區鉄屋町二條下ル尾張町第八番戸
印刷者　田中直次郎

京都市上京區二條通富小路東入晴明町第六百七十番地
發行所　帝國法政學會

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

90
8/24

90
218

90
218

031703−000−5

90−218

通俗帝国憲法講義

三巻　俊夫／述

M40
BBE−0330